

Citrina 通信

キトリナつうしん
No. 872



昭和 100 年 Showa Year 100

皆さんの生れた年(昭和)に今の年齢を足すと100になるはずだ。テラ爺は昭和 25 年生れで 75 歳なので、足して 100 になる。そう、今年は「昭和 100 年」なのだ。

■矢祭の昆虫館の土蔵入り口ホールをどのような設えにしようかあれこれ考えていたが、「昭和 100 年」で行こうとひらめいた。主な用途は受付、売店コーナー、図

書コーナー、観察コーナーなどで、そのレイアウトと家具のイメージをまとめてみた。

■新しい家具を買うのではなく、矢祭町の皆さんの家で不要になって物置に眠っている本棚や椅子、収納棚など、昭和の家具や調度品を使うのだ。昭和でもスチール製本棚やデコラ張りでない木製で揃えたい。経費節減と雰囲気とで、一石二鳥だ。

土蔵エントランスロビー 各コーナーと家具のイメージ

250809

The diagram shows a floor plan with several callout boxes and photos:

- 売店コーナー** (Sales Corner): 蝶や甲虫の標本、虫関連グッズ、ポスター、昆虫切手、標本製作道具他 (Butterfly and beetle specimens, insect-related goods, posters, insect stamps, specimen-making tools, etc.)
- 虫の体験コーナー** (Insect Experience Corner): 顕微鏡で観察を誘う、生きた虫との触れ合い、ビデオモニター、展示付きサイズ他 (Encourage observation with a microscope, touch with live insects, video monitor, display with size, etc.)
- 大テーブル (別注)** (Large Table (Special Order)): 1,200×2,100 深度の釘くさ (1,200x2,100 depth, nail-knotted)
- 図書コーナー** (Book Corner): もったいない図書分棚、奥木書櫃、入門書や専門書棚 (Don't waste book shelves, back wood bookcase, introductory or professional bookshelves)
- 給茶器、紙コップ** (Tea Service, Paper Cups)
- テラシ棚** (Terrace Shelf): 各種箱のフライヤー (Various box fryers)
- 壁時計、ポスター額、扇風機、文房具** (Wall clock, poster frame, electric fan, stationery)
- 受付** (Reception): 机、椅子、来館ノート、寄付金箱 (Desk, chair, visitor notebook, donation box)
- 収納棚** (Storage Shelf): 備品櫃、倉庫 (Supply cabinet, warehouse)

■虫の里関係者に口コミで、古家具を募ったが思ったように集まらない。地方紙の告知欄に出すと、それこそ粗大ごみの集積所ようになって困るので、次は町内会の回覧板に載せてもらうことを考えている。

■商品陳列用の棚は多分なかなか集まらないと思うので、まずは丁度良い奥行きの木製の棚板を作り付けようと思う。

■この売店は、コンビニの新装開店とは違うので、最低限の設えからスタートして、時間をかけて少しずつ充実して行くことを考えている。完成形はないと考えて、自然体でゆきたい。

(2025 年 7 月 21 日 / 寺章夫)



ふるさと探検隊 Special Class to learn about our town

矢祭町は「もったいない図書館」や「ヒガシダテ待合室」などユニークな企画があちこちにあるが、矢祭町立東館小学校の課外授業として「ふるさと探検隊」がある。町内のこんにやく工場を見学したり、お寺で座禅をしたりする体験学習だ。夏休み初日の7月21日、東館小学校1～6年生の児童26人が、菊池教育長以下7人の先生方の引率のもと、当昆虫館に「探検」に来た。

■虫の里からは、理科教育に豊富な経験のある福田晴男氏(グループ多摩虫代表)に理科特別授業の先生になっていただき、昆虫館の人文科学的展示をしていただいた新部公亮氏、矢崎潤子氏(虫の里福島奥久慈副会長)と石射がお手伝いをした。

■昆虫館敷地内の古民家母屋の入り口ホールに、虫の里の会員の片野恵仁氏の手配で搬入された学校で不要になった椅子を並べて、プロジェクターのスクリーンをセットして、立派な教室を設営した。9時過ぎには気温36度の猛暑の中、児童たちがマイクロバスで当館に到着して、早速福田先生の理科特別授業が始まった。

■福田先生はさすがに子供たちが興味をひくツボを心得ていて、次から次にでる標本箱やスライドを使った話に聴き入っていた。引率の先生たちも熱心に聴いていて、あっという間の1時間の特別授業だった。

■授業の後、昆虫館に場を移し、たくさんの標本を前に新部氏や福田氏からの展示の説明を聴いていた。一人でもこれを機に虫が好きなきが出てきたらと思った。



■先日の6月19日には矢祭町菊池教育長の計らいで、教育委員の皆さま・小中学校校長先生・役場教育行政関係者の皆さま11名に昆虫館に来ていただき、これだけの理科教育の施設が矢祭町に出来たことを紹介していただいた。

■この昆虫館が子供たちに虫を通して自然科学の目を育ててくれることは館の大きな目的の一つで、このような形で利用していただけるのは、昆虫館の関係者として大変うれしい。

(虫の里福島奥久慈設立の会事務局・石射正曜／2025年7月22日)

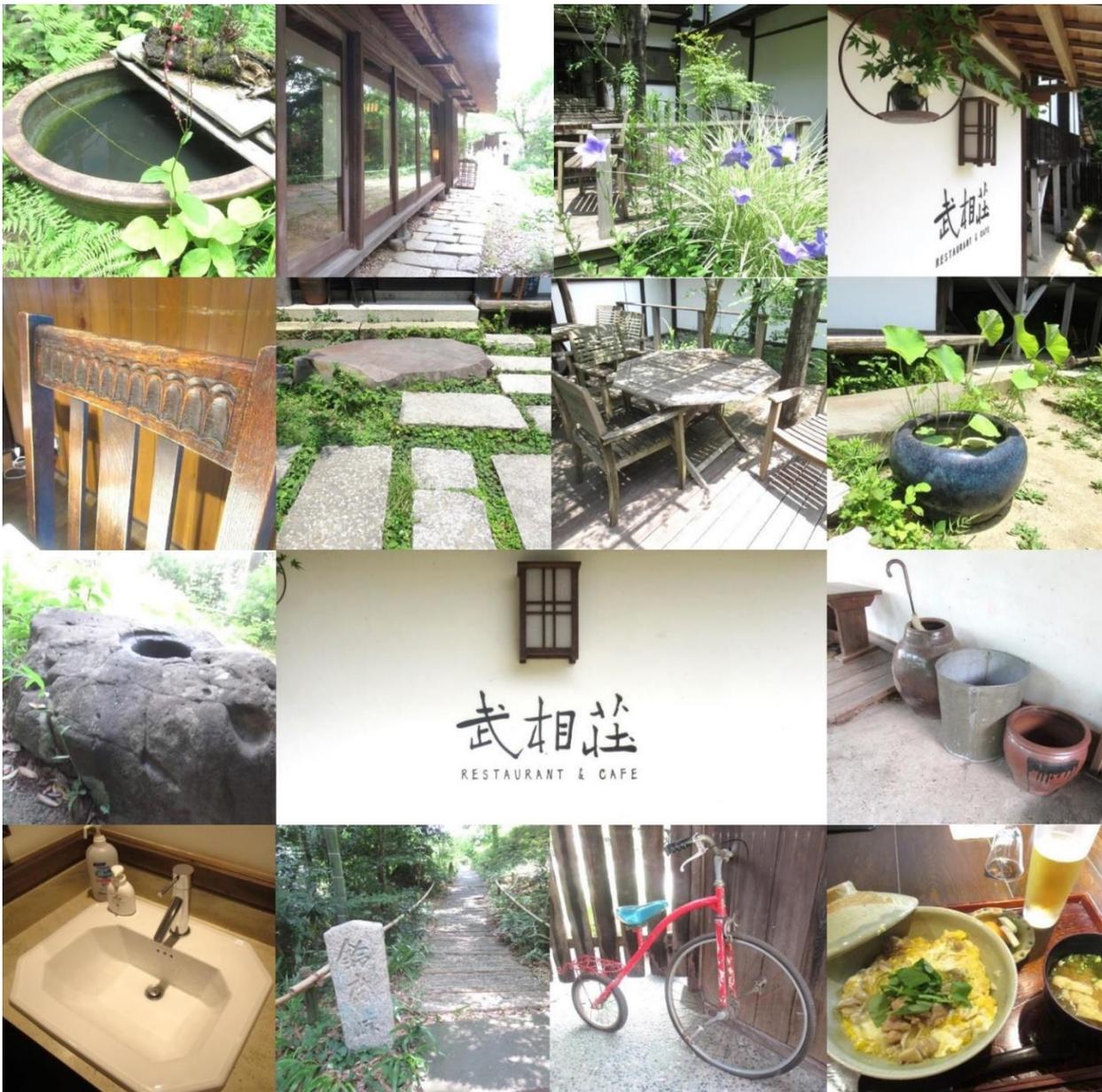
‘武相荘’を訪ねて Visiting the BuaiSou

町 田市鶴川の‘武相荘’に家内と行ってきた。江戸末期のごく普通の農家を改築して、白洲次郎、正子夫妻が戦前から住んでいたという家はそれ自体が風情があり、クヌギや榎などの雑木や敷石と野花などと品よく相乗効果を醸していた■あの家と敷地を公開して、維持費とスタッフの人件費を生み出そうという民間施設の苦闘が見えてくる。入館料 1,500 円は安くないし、またレストランや売店では市価の倍くらいで、強気の商売ができるのも白洲ブランドならではの。日本のアッパーと古い農家というミスマッチから生れる異空間を利用した商魂が垣間見える■結局は入館料、レストラン、売店で二人で 1 万円以上使ってし

まったが、惜しい気はしなかった。あの‘武相荘’に来る初老の人たちは白洲夫妻が過ごした豊かな生活の一部を疑似体験することでちょっとリッチな気分になって心を満たすために、平日の猛暑の中でも高い入館料を払ってあれだけの来訪者が来るのだ。

■福島の虫の里が売り物にできるのは、「豊かな古民家と昆虫館のミスマッチ」だと思ったが、それだけでは人は来ないし、金とはれない。白洲夫妻の強烈なキャラに当たるのが昆虫標本だが、心が満たされて豊かな気分になる仕掛けは何なんだろうと考えてしまった。地に足を付けた堅実な昆虫館だけにはしたい。

(寺草夫/2025 年 7 月 4 日)



奥久慈 食べ録 ③



うな昭

茨城県常陸太田市里美地区 444

■車で矢祭町に行く時に国道 349 号の茨城と福島の間境手前の右側に「うなぎ」の看板がある。虫の里理事の森さんといつも気になっていた。さびれた感じで閉店のようにも見えるが、車を止めて覗いてみた。看板には「久慈郡里美村徳田」とあり、20 年前の平成の大合併の前から立っているようだ。

■入り口扉には「予約のみ受け付け」とあり、営業はしているようだ。そっと扉を開けて、暗い丁場の奥に若女将がいたので声をかけると、予約なしでも2人なら OK と言う。味はともかくとりあえず鰻が食べられる、ありがたい。奥の座敷に通されたが、客は我々2人だけ。鰻だけでなく川魚料理とあり、昭和の雰囲気のある 30 帖ほどの座敷に舞台もあるので、この地域の団体客の宴会場のようだ。

■メニューは「うな重特上 3,300 円、上 2,750 円、並 1,870 円」で、迷わず特上を注文。玄関先に清流を引いた大きな「いけす」があったので、ちゃんと捌いて焼いているようだ。待つこと 30 分。出てきたうな重は大きくて、焼きも程よく満足味の味だった。小鉢に肝焼きが1本、デザートも出てきて、この値段はちょっと嬉しくなる。会計の時に店のカードを求めると、ないので箸袋をくれた。

■矢祭町には鰻屋が1軒もないので、ここまで食べに来るのか聞いたら、皆さんあまり来ないとのこと。やはり峠を越えて茨城県までは遠いようだ。でもこれからは矢祭出張の時は予約をして元気づけに寄ってみよう。



らーめん大笑

矢祭町関岡滝ノ沢 44-1

■矢祭町の唯一のホテル「ユール矢祭」の久慈川を挟んで向かい側の幹線道路沿いにあるラーメン兼居酒屋。店の表だけでなく店内はメニューの写真だけでなくポップが所狭しと飾り付けられて満願色だ。テーブル席の奥には大型テレビがある大きな座敷があって、夜は宴会場になるようだ。

■テラ爺はシンプルな醤油ラーメン(650 円)、森さんは背油入りの塩ラーメン、虫の里事務局の石射さんは醤油ラーメンにミニ豚丼を付けていた。スープはとんこつと魚介系のミックスの様で、合格点だ。ラーメンだけでなくチャーシュー丼などのご飯ものも美味しそうだ。

■レジの脇には、宣伝用に小さなチラシやインスタグラムのカード、子供用の景品があったりして、営業色満々だ。地味な「うな昭」とは好対照の営業姿勢だった。



(寺章夫)

タイトル画像: 古民家佐川邸に残る昭和 20 年代のオートバイ
当主佐川修氏が学校長時代に通勤に使っていた愛車